介護予防センター元町 一口メモ(20)　2009.3.24

Ｈ２１.３.２１　「元町の福祉を考える集い」の報告

主催/元町まちづくりセンター・元町まちづくり協議会・元町地区社会福祉協議会
共催/東区介護予防センター元町
場所/元町会館２階
参加者　４１名（関係者含む）

先生の明るくざっくばらんの人柄で、終始和やかであたたかな雰囲気の中、講演と実践者発表が行われました。

講演「地域福祉力・地域でできること」

北海道医療大学　看護福祉学部　　講師　丹野和子氏

実践者発表「地域でできること・地域にもとめることは？」

発表者～子育て・高齢者サロン実践者

子育てサロン「キャロピーきっず」　毎週月曜日　元村公園会館
高齢者サロン「サロンもとむら」　毎月第３火曜日　元村公園会館

それぞれの課題を考えながら、楽しく係わっている現状をやさしい口調で話されました。
その後、丹野先生が司会をし、実践者や参加の方々と掛け合いで意見交流を行いました。

《集いを終えて・・・》

あらためてボランティアとは？　身近なことから始められる！　と実感できる内容でした。
元町に住む子どもから高齢者、障がい者の方、認知症をかかえるご家族への支援など、地域の皆さんが安心して暮らせるまちづくりを考え実践する一歩になればと願います。
実は、実践者発表に障がいの方を依頼していましたが、ご都合で出席できませんでした。
事前に伺っていたお話をここでお伝えします。

「小さな願いが叶うネットワーク」　ハンディキャップのある立場から

お年寄りとハンディキャップのある者
人事ではなく、もしかし自分・・・と思って下さい。

何故、サポートが必要か
サポートを受けることにより、同じ人として住まう者として、喜びを、幸せを感ずることのできる日々がベースにあって欲しいと願います。
同情や責任問題ではなく、同じ地域に暮らす人として当たり前の助け合いを。

サポートを受けるには
今は人に迷惑をかえたくないと自己決定し、孤立化模様です。閉じ困っている人が中から声を上げる。そして声を上げ易くする環境を願います。

どのようなサポートを願うか
願いは小さなこと。ゴミ出し、郵便投函、コンビニ振込み、図書利用、物の移動、多くのことは、待つこと我慢できること、創意工夫で解決。
とりあえず、廻りは大丈夫だから何でも言ってごらんという雰囲気づくり
小さな願いを叶えるしくみ（ネットワーク）ができたら・・・

ハンディキャップのある中でも
サポートを受ける側にも何か役に立てることがあるに違いない、役に立てる時があるに違いないと思っています。
お年寄りもハンディキャップのある者も、社会人としてより良いコミニュケーションを図る最低限のマナーを守りたいと思います。

アンケートには、元町の地域ボランティア活動をしたいと回答された方が多くいます。今後福祉に関する受けたい研修もいろいろありました。
ボランティアの志しのある方々が意見を出し合い、活動を企画できたら素晴らしですね。